

加西市の現状総括

IV. 活力ある産業づくり

IV-1 農林業の振興

【課題】

加西市は兼業農家主体の農業地帯であるため、就学、就職による若者の都市部への流出によって農林業の後継者が不足し、耕作放棄地の増加や里山の荒廃が進んでいます。また、里山が荒廃することによって、シカ、アライグマをはじめとする有害鳥獣による農作物の食害が市北部を中心に増加し、生産者の“やる気”を阻害しています。

その背景には、ライフスタイルの変化に伴う米消費量の減少や米価の下落、流通体制の問題によって“農業は儲からない”イメージが全国に広がっています。これを打開するためには、兼業農家のコスト削減に向けた集積化、担い手の育成による後継者対策とともに、農業参入希望者と市内農家とのマッチングや、市内各事業者による農商工連携の推進、生産者自らによる販路拡大など、新たな農業ビジネスモデルの構築が求められています。

【チャンス】

加西市には、神戸大学大学院食資源教育研究センターをはじめ、県立農林水産技術総合センター、農業大学校、フラワーセンター、播磨農業高校など農業に関する学術研究施設が多数存在しています。また、市内企業はもとより加西南産業団地、加西東産業団地に進出している食品加工事業者も多数あり、産官学連携による取り組みが進めやすく、高付加価値のある農産物の栽培や加工品の開発が可能な環境にあります。また近年、企業による農業参入が可能になり、京阪神大消費地に近い生産地としての利便性を持ち合わせています。

一方、全国的な地産地消の推進により当地産農作物が見直され、加西市においても「かさい愛菜館」をはじめ、宇仁郷まちづくり協議会や原始人会、更にはインターネット販売など、市内農産物の直売を行う体制構築や団体が増加してきています。京阪神近郊では市民農園の開設によって都市住民による野菜づくりが活発に行われており、加西市にも現在2園が開設され、今後増えていくと予測されます。

このように多方面に渡った市内外の様々な企業、団体、市民が農業に関わることで、加西市の農業が活発化するとともに、長い歴史で培われた“集落力”の復活に繋がります。

IV-2 工業の振興

【課題】

近年の経済不況から、市内の多くの中小零細企業が苦しい状況にあり、有効な支援制度の制定等が求められています。

市域の大半を市街化調整区域が占め、工業立地における法的自由度が低い状況です。また、

公共交通が少ない、道路整備が遅れている、上下水道料金が低い、工業用水が整備されていないなど、**企業誘致に不利な点があります。**

企業誘致優遇制度等の活用によって加西南・東産業団地の満杯化も目前となったことから、**新たな工業適地が求められます。**

一方、工業立地が増えることによって、**豊かな自然環境や景観を損なう可能性**があります。

【チャンス】

加西市は、中央部を中国自動車道が、隣接する加古川市北部を山陽自動車道が横断しており、自動車交通の上では好条件に位置しています。また、産業振興促進奨励金や加西南産業団地、加西東産業団地における企業誘致優遇策が充実しており、進出しやすい環境が整っています。その結果、加西市の製造品出荷額の伸びは、近年国、県を上回る率を示しています。

さらには、課題となっていた通信網について光ファイバー網の幹線が平成 22 年度に整備される予定であり、様々なインフラ整備が進んでいます。平成 22 年度には三洋電機によるリチウムイオン電池工場やグリーンエネルギーパークの建設による大きな波及効果が期待できます。

IV－3 商業・サービス業の振興

【課題】

平成 20 年のイオンショッピングセンター進出によって既存店舗の衰退が懸念されており、**店舗間の連携**など、**小規模店舗の振興策**が必要とされています。

平成 22 年稼働予定の三洋電機リチウムイオン電池工場等に関連する加西市への来訪者に対応した**宿泊施設の需要も高まる可能性**があります。

【チャンス】

アステアかさい、イオンショッピングセンターに続いて旧ジャスコ跡地への商業施設進出、更には三洋電機のリチウムイオン電池工場とグリーンエネルギーパークなどの進出による交流人口の増加は、ロードサイドビジネスの増加にも繋がり、商業全体の活性化が期待できます。

また、加西市は田舎や古いまちなみを生かしたニュービジネス、スローライフビジネスの可能性を持ち合わせており、北条の宿はくらんかいや北播磨じばさん元気市のように活動の契機となるようなイベントも開催されています。

IV－4 観光・ビクター産業の振興

【課題】

加西市には、玉丘古墳群、法華山一乗寺をはじめとして**数多くの歴史的資源**がありますが、**うまく活用できていません。**観光立市ではない加西市にとっては市民の観光に対する意識が

低く、「おもてなし感」の醸成や子どもに対して地域資源に誇りが持てる教育を行うことが必要となっています。

近年は、全国的に田舎体験（グリーンツーリズム）、自然体験（エコツーリズム）、歴史体験（ヘリテージツーリズム）等の人気が高まっていますが、自然豊かで歴史農村地帯である加西市においての広がりはまだまだ少ない状況です。また、公共交通の充実、観光情報発信の促進や拠点整備などのインフラ整備や、観光ルート、ストーリー設定なども課題となっています。

加西市の特性を生かした特産品の開発育成や自然食レストラン、アートギャラリーなど、地域住民が地域資源を活用した都市農村交流ビジネスへの取り組みが求められています。

【チャンス】

加西市の「石と花」を中心とした豊富な歴史的資源、観光資源や田畑やため池などの農村環境を活用する動きが出始めています。

まず、観光ボランティアガイドや北条鉄道などの公共交通事業者連携によるハイキングやウォーキングイベントが多く開催され、点在する資源を線で結ぶ観光を目指す取り組みが増えつつあります。また、北条の宿はくらんかいをはじめ、宇仁郷まちづくり協議会のコスモスまつりや菜の花まつり、原始人会の様々な田舎体験イベントなど、まちおこしイベントの開催によって多くの観光客が訪れています。今まで市民を対象としていた加西サイサイまつりや加西ロマンの里ウォーキングも手法を変えて広くPRすることで、市外の参加者が増えています。そして、東北播磨の広域連携による「播磨国宝巡りの旅」や「どぶろく作り体験ツアー」などはその可能性を証明する取り組みとなっています。更には、伝統的な祭りや行事も再評価されつつあり、北条節句祭り、東光寺の田遊び・鬼会、日吉神社、網引八幡神社をはじめとする多くの秋祭りなど、地域の伝統と誇りを受け継ぐために広くPRに取り組む機運が高まりつつあります。

新しい時代に向けては、最新環境技術を導入した三洋電機のグリーンエネルギーパークの開設による太陽光発電などの「エコ体験」への人気が高まり、新たな体験観光の柱になる可能性を秘めています。

このような状況にあって、加西市の地理的特性を生かしたPRとして、加西サービスエリアを含む中国自動車道や山陽自動車道沿線、北条鉄道そのものを観光資源とした公共交通利用者をターゲットとすることで交流人口の増加を図ることができます。

IV－5 労働対策の充実

【課題】

加西市には零細企業を中心に労働環境が課題となっている企業が多くあります。景気悪化による失業者数も増加しており未就労者の実態把握を行う必要があります。職探しの場として西脇ハローワークがありますが、その管轄区域と加西市民の通勤圏が異なっており、新たな職探しに支障をきたしています。また、女性の社会進出をしやすい環境づくりや高齢者の

労働力活用など、人口減少社会も踏まえた対策が必要となっています。

また、民間では派遣労働者をはじめとする不安定な雇用形態が増加する一方、行政においても正規職員の減少、臨時職員の採用や民間委託が進んでいます。ワーキングプア対策など安定雇用のための施策が求められています。

【チャンス】

加西市では、平成 20 年のイオンショッピングセンターに続き、平成 22 年には三洋電機の新工場稼働によって雇用の創出が期待されます。

一方、人口減少社会において加西市も労働力人口が減少しており、今後女性や高齢者の労働力が必要不可欠となってきます。